

謎に包まれたエイリアン作品の喪失

ミッシング



H.R.GIGER

H・R・ギーガー

右/491ツーリストⅢ、ぶら下がるカニ・エイリアン

アクリル、紙 100 x 70cm 1982年

左/372エイリアンⅢ、側面

アクリル、紙 140 x 100cm 1978年

「東」

京でのショーの前年だったから、1986年頃のことです。私の作品が次に行方不明となったのです」

リドリー・スコット監督作品「エイリアン」の生みの親H・R・ギーガーは言う。まるでミステリー映画のような話だが、彼の作品は当時のエージェントの保管場所から、作品が飾ってあったレストランから、次々に消えていった。分かっているだけで8点の作品をいまだ失ったままだという。ただギーガーは作品がなくなっただけを「盗難」と表現してほしと語った。そこには、作品を所有している人に罪悪感を与えたくない、何とか返却してほしい、という願いが込められているようだ。

この5月、ギーガーのもとに1通のEメールが届いた。「あなたのウェブサイトのLost paintingコーナーにある作品の1点を友人が所有していることに気づき、大変驚きました」という書き出しで始まるそのメールは、以下のように続いていた。「その友人は、オーストラリアのクイーンズランドにあるフィギュアショップで、英国人のバックパッカーから「エイリアンⅢ 側面」を購入。彼はこの作品をとても気に入っていて、もし盗難品であれば返却しなければならなくなるのでこれ以上の協力はできませんが、彼はクイーンズランドのゴールドコーストに住んでいます。最後に、他の喪失作品が見つかりますように」

もう1点、どこにあるか分かっている作品に、ギーガーの4連のポートレートがある。撮影した写真家が自分に版權があると言い切り、キープしてしまっているのだ。ギーガー側は、左端の写真は写真家に権利があるとしても、ギーガーが手を加えた残りの3枚は明らかに権利がある主張しているが、解決していない。喪失からすでに10年以上が過ぎた。情報は今も送られてくるが、いずれも作品返却には至っていない。彼の描いた100点近くの絵画作品はそのほとんどが売られ、92年以降は絵画から彫刻へ創作活動を変えたため、手もとに残っている作品は数少ないという。ギーガーは昨年6月にスイスの古城を改装してオープンしたH

・R・ギーガー美術館に1点でも多くの作品を展示したいと、喪失作品の返却を願っている。これらの作品を見かけたなら左記までご連絡を。

Leslie Barany Communications:
121 West 27th St., 202 New York, NY 10001
<http://www.HRIGGER.COM>



撮影した写真家が所有しているといわれるギーガーの4連ポートレート。

●1986年頃/製作されなかった最高のSF映画として知られる「ツーリスト」のために描いた「ツーリストⅢ、ぶら下がるカニ・エイリアン」ほか「エイリアンⅢ、側面」など数点が、煙のように消え去った。